

2025
3



コレクションⅢ展「あれから30年―県美コレクションの半世紀」関連
こどものイベント

「たてものフロッタージュ」

- 開催日時：2025年3月22日(土) 10:30～12:30
- 参加者：こども15名、保護者13名
- 対象：小学1年生～中学生
- 場所：アトリエ2,常設展示室

■概 要

コレクション展Ⅲからトン・マーテンスの作品を取り上げ、美術館屋内外での建物のフロッタージュ制作と展覧会鑑賞を行いました。

■1 オリエンテーション

みんなでご挨拶をした後、コレクション展Ⅲを企画した飯尾学芸員から展覧会についての紹介がありました。「30年前の阪神淡路大震災では、兵庫県立近代美術館の作品も大きな被害を受けました。今回の展覧会には、この地震をテーマにした作品のほか、地震で被害を受けた作品も修復されて展示しています」今回は、出品作品の中から被害が大きかった神戸市長田区の建物をフロッタージュしたトン・マーテンスの作品を取り上げました。



飯尾学芸員のレクチャー

◇参加者の感想（※原文をそのまま紹介）

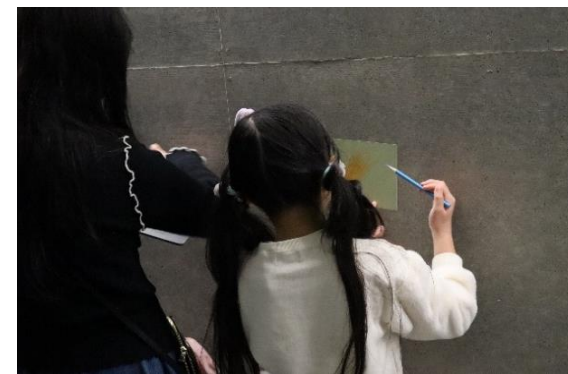
- ・えんぴつとけしごむ、えのぐとかつかって絵をかくのじゃなくて、ゆかのぼこぼこもつかって絵をかけるってすごいな！（小3）
- ・作品をつくるのはむずかしいけど、それぐらいかちがあるとおもうし、がくげいいんさんたちのせつめいがわかりやすかったです（小3）

- ・こどもと美術館へ行きたいなと思っていたところ、このイベントがあると知り、良いきっかけとなりました。ありがとうございました。（保護者）
- ・作品の修復に関して、学芸員の方から説明を受ける機会はなかなかないので、こどもがとても喜んでいました。（保護者）

■2 フロッタージュ開始！

フロッタージュはでこぼこしたものの上に紙を置いて、鉛筆やクレヨンでその模様を写しとる、ひとつの表現方法です。今回は色鉛筆と、和紙や版画用紙、トレーシングペーパーなど9種類の紙を使って制作を行いました。

まずは全員でアトリエ前の廊下で"おためし"フロッタージュを行いコツを掴み、その後は各自で美術館屋内外を自由に散策し、建物のでこぼこを探し制作しました。「傘立ての模様がおもしろいよ！」「色鉛筆の濃さを変えてみるとちがう色になる」ひとつの建物でもさまざまなでこぼこが見つかりました。アトリエに戻ると、集めたフロッタージュを正方形に切り、台紙に貼り、たてものフロッタージュ作品の完成です！



制作の様子



鑑賞時の様子

■3 展覧会の鑑賞

制作後には、みんなで展示室へ。飯尾学芸員のお話を聞いて、熱心にメモを取る参加者もありました。そして、いよいよトン・マーテンスの巨大な作品の登場です！近づいて見てみると、先ほど行ったフロッタージュと同じようにでこぼこした模様がついていました。飯尾学芸員から「これは被災した建物をフロッタージュしたもので、ここで展示されているのは作品の一部、実はまだ続きがあるんです」と聞くと、またびっくり！参加者は興味津々で飯尾学芸員に質問をしていました。

■4 相互鑑賞、ふりかえり

最後に参加者の作品をみんなで鑑賞し、今日の活動のふりかえりを行いました。「点字ブロックが気になって、丸をひとつずつ違う色で塗りました」「写すときに違う色を重ねると、もっとおもしろくなりました」など、模様のほか、色に着目した意見もたくさん出ました。展覧会の鑑賞についての感想は、「美術館に修復というお仕事があることを初めて知って、すごいなと思ったし、もっと知りたいと思いました。」と、美術館の一つの役割でもある保存修復について興味を持ってくれた参加者もありました。

今回制作したフロッタージュは、お家でも簡単にできる技法です。ぜひお家でも挑戦してみてくださいね。参加してくれた皆さん、ありがとうございました！



参加者の発表

□担当学芸員からのコメント

フロッタージュ、いかがでしたか？フロッタージュは単に表面の凸凹を写し取るだけの単純な手法とされがちですが、紙の種類や筆記具の種類、こする力によって模様の出方がさまざまで、その表現の幅は実に多種多様です。みなさんの作品も美術館の建物のデコボコや形がうまく写し取られていましたね。フロッタージュは表現の面白さだけでなく、写し取った「物」の存在を紙の上にとどめておくための手段にもなります。展示室で一緒に鑑賞したトン・マーテンスの巨大なフロッタージュ作品には、震災に耐えた壁が「確かにそこにあった」ことを後世の人々に伝えたい、その存在を忘れないでほしいという強い思いが込められているように思えます。（飯尾学芸員）